

ています。

昨年11月に、高田仏教会主催で「悲嘆について学ぶ」と題したグリーンフケアのシンポジウムを開催し、上智大学グリーンフケア研究所の著名な先生方をお招きいたしました。この企画は、西協会長の「お寺におけるグリーンフケアの重要性を広めたい」という強い思いに基づくものであり、私もスタッフとして関わらせていただきました。悲しみや喪失に寄り添う場としての寺院の可能性を、改めて深く考える機会となりました。

新潟県仏教会は、伝統仏教の様々な宗派に所属する僧侶が集う、超宗派の組織です。この多様性こそが、現代社会における仏教の可能性を広げる力であり、宗派を超えた対話と交流は、仏教の本質に立ち返る貴重な営みであると感じています。宗派の違いを超えて、共に祈り、共に学び、共に支え合う仏教会の姿を、これからの活動の中で育んでいければと願っています。

そのためには、まず若手僧侶の育成が、仏教の未来を担う上での責務であると考えます。今期の事務局長には若手僧侶たちが多く参加しています。若い世代が年配の世代と世代間の壁を超え、宗派の垣根を超えて語り合い、共に学び合う場を設けることにより、仏教の教えが新たな形で息づいていくと期待しています。さらにもう一つ、地域社会との連携も、本仏教会の意義ならびに現代の寺院の役割を再発見、再定義するうえで欠かせません。「グリーンフケア」や「いのち教育」を通じて、寺院が地域社会の心の拠り所となり、いのちの尊さを伝える場として機能することを目指していきたいと思っています。

さて、私事ながら、本仏教会の活動に先駆けて、この8月に、これまでの実践と研究をまとめた書籍である『いのち教育 ふれて、学んで、つながって』（晃洋書房）を出版いたしました。本書は、いのちにふれる体験を通じて、いのちか

ら学び、いのちのつながりを感じる教育実践のあり方を探るものであり、現代における死生観の構築やケアの視点を何よりも重視しています。本書を通じて、「いのちの尊さを実感する場としての寺院」のさらなる可能性を広げる一助となればと切に願ってやみません。県仏通信を通じて、こうした取り組みを広く共有し、今後も本仏教会の活動の一環として発信していければ幸いです。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。 合掌



4月から新潟県仏教会事務局で会計をしている、浄土真宗浄興寺派・正光寺の長沼賢寛と申します。

2024年4月26日の新潟県仏教会総会におきまして会費の値上げが議題と

なり、2025年度より会費を200円値上げし700円と決まりました。また、2024年8月10日付けで各地域仏教会様に予算編成のお願いがされています。この時、県仏教会予算編成のため地域仏教会様に所属寺院数の報告をお願いしています。

今回の県仏通信に2025年度新潟県仏教会予算書を報告します。今年5月7日の理事会で承認されました。繰越金は、308,555円（小口現金87,199円、ゆうちょ口座221,356円）です。小口現金は、事務局の中越地区から上越地区への移動に伴い初期確認事務作業、理事会、欠席理事への理事会資料送付等ですでに不足しています。また、例年の全日本仏教会負担金26万円と、今年から4年間毎年「法人創立70周年記念事業協力金」32,500円の増額の請求書が届いています。口座預金は全日本仏教会負担金だけですでに不足しています。理事会資料には、(1) 新津の仏

舍利塔存続の危機(2) 新潟市仏教会の「みなみ寺ス」(3)「安楽死について考える」講演会の3枚も欠席理事に同封しました。両面コピーで3枚に抑えたつもりでも送料は、180円（昨年9月までは140円）でした。送料値上げは、年2回の県仏通信送料にも影響します。2025年度の繰越金は、前年より46,106円減っています。地域仏教会の寺院数は3月引継ぎ時資料が、4月確認済みだけで56か寺減少です。

人口減少、仏教行事の簡素化と減少等、多くの各寺院が困難なか大変心苦しいですが年会費値上げをお願い致します。また、個人会員の御寺院も例年より200円の増額をしていただいたくお願い申し上げます。会計と事務作業で多くの間違いをしながら県仏教会の方々の御厚情でやっとなり理事会を乗り切りました。失礼な対応運営をしてしまいました。深くお詫び申し上げます。次は県仏通信33号の発行ができるのか。会計業務